

メイトルの つばやき

No.16

国際交流員とは

こんにちは！

春です！とうとう長かった寒い冬の季節は終わりましたよ！春は新たな始まりの時期です。みなさんの夢が一つでも叶うことを私は祈っています。ちなみに、イスラエルではまつげが1本頬につくと、目を閉じて秘密の願いことをするという習慣があります。そして、願い事をした後、自分では、そのまつげを取らないで、あなたの目の前に立っている人にまつ毛を取ってもらいます。そして、その人に、まつ毛を吐き飛ばしてもらいます。とても面白い習慣です。日本にも似ている習慣がありますか？



私は八百津町に来てから、1年8ヶ月が経ちました。時がたつのは何て早いんだろう！と思います。時々、「国際交流員とは、どんな仕事ですか？」という質問を受けます。今回は、八百津町の国際交流員の仕事をご紹介します。私は「JETプログラム」という事業に参加しています。一般的に、JETプログラム「語学指導等行う外国招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)に参加する国際交流員の任務は、住民の異文化理解・コミュニケーションを深めることにあります。具体的に、市町村の国際交流員は住民のためにいろいろな活動を通じて自国の文化や生活を紹介します。例えば、私は、イスラエルについての講演、料理教室や学校訪問を行っています。

その学校訪問で、日本の子どもたちにゲームやイスラエルの話などを通じて、イスラエルの子供たちの生活や好きなもの・イスラエルの文化・祭り・料理・観光地などを紹介します。簡単なヘブライ語(母国語)の挨拶も教えます。そして、ヘブライ語講座を行っています。日本人にヘブライ語を指導することは、一生に一度の経験です。そして、いろいろな場面で、英語・ヘブライ語・日本語の通訳や翻訳も行

います。さらに、八百津町の国際交流員の場合は、もう一つの特別な任務があります。それは、杉原千畝氏の功績を後世に伝えることです。八百津町は杉原千畝氏生誕の地であることから、国際交流員はイスラエル人です。杉原千畝氏のおかげでイスラエルと八百津町の間に強い関係が結ばれました。私は日本人の団体が杉原千畝記念館を訪れた時、イスラエル人の見解から杉原氏とホロコーストについて説明し、イスラエル人の団体が来館した時には、ヘブライ語で館内を案内・説明します。そして、小学生や中学生などに、ユダヤ人の歴史、ホロコースト、イスラエルのことについて、杉原氏が私たちユダヤ人を助けたことについてなど話します。さらに、杉原氏に助けられた生存者やその家族と八百津町との橋渡しとしての務めも担います。

私は、八百津町の国際交流員として八百津町のみなさんの希望に応じる国際交流イベントを行いたいと思っています。

また、私は現在、八百津町の町民のみなさんと生活をともにしているので日本の生活や文化を知ることができました。今の世界には、こうした国際交流が、とても重要だと考えています。そして、その相互理解を通じて私たちの人生を豊かにしてくれると思っています。

平成24年度もいろいろなイベントを計画しますので多くの方に参加して頂きたいと思っています。

みなさんのご参加をお待ちしております！



メイトルさんへの質問は
meital@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！

